

- 1 科目区分 : 大学院 : 教育実践高度化
- 2 授業科目 : 研究指定校実習
- 3 タイトル : オーダーメイド実習「現代的教育課題に関する先進的実践研究からの学び」
- 4 所属・氏名 : 教育学研究科 高橋 葉子

(1) 授業の基本情報

科目区分 : 大学院教育実践高度化専攻  
 科目名 : 研究指定校実習  
 担当教員 : 高橋 葉子  
 登録学生数 : 10名

(2) 研究内容

教職大学院では、地域と共にある学校づくりに貢献できる人材育成を目指しており、**変化する地域・教育現場に適応できる資質・能力を身に付けた教員の育成**に取り組んでいる。そこで、カリキュラムは、**現場密着を重視し、授業にける理論と現場での実践の融合**が実現するよう工夫・改善を図っている。

今回報告する研究指定校実習は、他の実習とは異なり、まず県内外の現代的教育課題に関する先進的実践研究校をリストアップし、その中からディプロマポリシーに基づき実習校を選択した。正に、**学びたいことが学べるオーダーメイド実習**である。以下に、具体的な授業研究内容を報告する。

① 研究指定校実習の目的

愛媛県内外の研究指定校での訪問観察実習を通して、**教育の現状と課題及びその解決のための研究実践の実情**を知り、学校経営に対する理解を深めるとともに、**現代的教育課題を解決する力**を養う。

【教育実践開発コース】

- ・現代の課題に対応した先進的実践を展開している学校の特徴を正しく理解し、一般的な課題として改善策を提示する。
- ・先進的な取組の独自性や組織的な取組の有効性についての的確に把握し、自校の課題解決に向けて実行可能で具体的な改善策を提示する。

【リーダーシップ開発コース】

- ・先進校と勤務校との違いや特徴を組織・カリキュラム・指導方法等の観点に基づき、正しく理解し、自校の新たな課題を発見し、実行可能で具体的な改善策を提示する。

② 実習先選定の流れ

教職大学院専任教員の**ネットワーク力**を活かした研究実践校リストの作成

↓

教育改革の方向性を見据えた**現代的教育課題の視点**による選定

↓

**研究課題及び実践的指導力の向上**を目指す観点に基づく学生の希望調査

↓

各自治体教育委員会または各学校への申請

③ 実習実施方法

・選定した6テーマ

- ア「特別の教科 道徳」の授業実践研究
- イICT活用による教育の質の維持向上
- ウ「挑戦科」の新設による小中連携教育
- エ発達障害早期支援研究
- オ体育専科による授業力向上
- カ高校教育におけるアクティブラーニング

・実習実施体制

研究家教員、実務家教員の連携体制による、引率・実地指導及び成果発表の場の設定

・実習期間 : 10月～1月、2月21日の成  
ポスターセッション

・事前指導内容

実習校の概要説明による自己の実習目標や実習の進め方の明確化  
具体的な実習計画の立案

研究概要、研究体制、実践状況の記録累積

・事後指導内容

実習校の実践研究内容及び自校の  
実践課題に関する省察レポート作成  
観察記録及び省察レポート等の  
ポートフォリオ作成

・実施上の留意点 (工夫・改善)

☆自己の研究課題や自校の教育課題との関連重視 (改善策の具体的な提示)

☆**地域の核となる学校現場の具体的実践を通した学校の役割の理解促進**

☆自己の実践的指導力の向上

#### ④ 評価の観点

##### 【実習事前・事後指導及び実習中】

- ・課題意識を持った記録や参加意欲・態度
- ・積極的な協議等への参加

##### 【実習報告書・省察レポート】

- ・研究概要のまとめく簡潔・特徴>
- ・自校及び自己の教育実践に生かす内容の提案
- ・機能的・有効的なポートフォリオ

##### 【報告会】

- ・先進的取組の正確な概要及び表現
- ・新たな課題発見と具体的で実現可能な改善策の提示

※全教員による到達度評価

#### ⑤ 授業評価

学生の省察レポートにおける考察より、本実習の成果を考察する。

##### ア「特別の教科道徳」の授業実践研究

- ・学習課題の明確化が、「楽しい道徳の授業」を創造する工夫である。
- ・教師の揺さぶりが、主体的・対話的で深い学びにつながる。
- ・資料配布のタイミングが、授業の深まりを左右する。
- ・大会運営に携わることも含めて、この幅広い学びを、私自身の道徳の授業や教育活動に必ず生かしていく。

##### イ ICT活用による教育の質の維持向上

- ・人口減少社会におけるICT活用による合同授業の実施の意義・効果が分かった。(表現力の育成、社会性の育成、多様で豊かな人間関係の構築、学習意欲の向上、教師の授業力の向上)
- ・学びの基本の定着、授業づくり・評価の充実、カリキュラム・マネジメントの重要性を確認した。
- ・自治体の学校教育推進に向けた取組の実証事業の役割と今後の課題を理解することができた。



#### ウ「挑戦科」の新設による小中連携教育

- ・「トライアンドエラーの精神」を特徴とする体験活動を通して児童の資質能力の向上を目指している。
- ・地域・保護者を巻き込み、協力体制を構築することで、地域活性化につながっている。
- ・教職員組織の連携・協働が、授業改善につながっている。
- ・学校と地域が固く結ばれ、理念と実践が融合していると強く感じた。
- ・地域全体で子どもを育てる意識と仕組みが構築できている。
- ・行政のリーダーシップによる学校との一体化が見えた。
- ・小中の系統的な指導方法が定着し、導入・充実・発展の一貫した取組がある。
- ・研究会における管理職の役割・運営手法を学んだ。



#### エ 発達障害早期支援研究

- ・子どもの実態を大切にしたユニバーサルデザインやアクティブラーニング、合理的配慮に基づく授業づくりを行い、子どもの学びを確かなものにした。
- ・学びやすい学習環境をつくりたい。
- ・就学前機関や関係機関との連携により、早期発見・早期支援の提供・充実が重要である。



## オ 体育専科による授業力向上

- ・体育専科の役割が、体育的活動のコーディネートと運動の日常化を図ることであると理解できたが、配置解消後の取組継続が課題である。
- ・実態把握に基づいた目標設定と取組（校内研修による授業改善）を学校全体で進めることが重要である。
- ・体育科の授業においても、「主体的・対話的で深い学び」「思考を活性化する学習活動」が重要である。



## カ 高校教育におけるアクティブラーニング

- ・模擬集団討論を体験した生徒の感想から、日常の授業においても、アクティブ・ラーニング導入の必要性を感じた。
- ・愛媛大学社会共創学部生から、「これからの時代は、チームで活動をしたり、仕事をするのが重視されており、集団討論で必要とされる力や身に付く能力が求められている」との意見から、アクティブ・ラーニングの飛躍的充実の必要性を再確認した。
- ・アクティブ・ラーニングの成果や入試対策との関連等について、高校教員間での課題が共有できた。
- ・現場の抱える課題解決に役立つよう、研究を深めたい。
- ・授業改善による効果は明らかになったが、進路実現という最重要課題があるので、効果を生かしつつ学力向上に向けた授業が、アクティブ・ラーニング型授業の姿であると考えます。
- ・次年度は、学年、教科、単元に関する効果的な実践研究を考えている。
- ・高校の現場における授業改善に向けた取組が始まったことは画期的であるので、本事業を契機に自分自身も力を尽くしたい。

## (3) 地域社会を核とした

教育と研究のつながり

- 今回選定した研究指定校のテーマは、全て現代的教育課題であり、全て学校・家庭・地域社会との連携・協働が求められるものであることから、教員に求められる資質・能力の育成に向けた教育実習対象としての価値は評価できると考える。
- 全時間、観察及び協議への参加による実体験等、実感を伴う体験的な学びの場であり、実践的指導力の向上につながる。
- 実習内容イに関しては、小規模校を対象とする自治体主体の文部科学省実証事業であり、地方創生の実現に向けた学校教育の役割等についても研究することができた。
- 実習内容ウに関しては、学校と地域が一体となった具体的な取組を体験した実習において、学生自身が地域の存在を直接体験することができた。
- 実習内容エに関しては、発達支援事業に関わる関係機関として、地域人材や行政の役割にも触れることができ、地域社会と学校教育のつながりの重要性を理解することができた。
- 大学と学校現場とのつながりを構築し、恒常的に研究開発実践校を確保していくことが今後の課題である。





